

一般社団法人口カップジュニア・ジャパン

2020年度第3回理事会議事録

1. 日 時 : 2020年8月2日（日）10：00～11：45

2. 場 所 : 大阪市北区豊崎3-20-1 インターグループビル会議室 ZoomにてWeb会議

3. 出席者

(1) 本人出席者 10名

大橋健、水野勝教、今井俊二、中島晃芳、野村泰朗、島谷太、森重智年、小山航太、
松山森仁、田中宏明(監事)

(2) 委任状提出者 1名

松原仁

(3) 理事以外出席者 3名

前田正久（事務局長）、浅沼まり（事務局）、休場万喜（事務局）

4. 議 事

1. ブロック長意見交換会について〈内容確認〉
2. 2021スケジュール
3. 今後のレスキュー運営について
4. Regional Rep会議報告
5. その他
6. 議事録署名人の選定

5. 資 料

- 資料1-2 ノード大会参加人数
資料1-3 ノード大会出場チーム数
資料2 ワールドリーグ・ビデオ審査について(報告)・審査申請書類
資料3 RoboCup2020関連のオンラインイベント
資料4-1 RCJJ年間スケジュール(案)
資料4-2 今後のレスキューの運営提案

6. 議事概要

(1) 議長の選出

①大橋代表理事が議長に選出され開会を宣言し、本総会は、定款第18条の規定を満足しており、成立していることを報告した。

(2) ブロック長意見交換会について〈内容確認〉

①小山理事より、資料1-2、1-3に基づき、参加人数の推移について、WLではサッカーオープン、シミュレーション、OnStageに減少傾向が見られるとの報告がなされた。水野専務理事より、集計表未提出のブロックが多数あるため、数字の正確な分析が困難であり、ブロック長会議で未提出のブロックに対し、提出を促す必要があるとの意見がなされた。森重理事より、正確な分析はできていないが、シミュレーションは学校単位でのエントリーが多いため、その年により参加チーム数にはばらつきがある。また、上位リーグであるMAZEの減少は顕著であり、上位リーグへの誘導が課題であるとの説明がなされた。水野専務理事より、WLでの減少は世界大会の年齢制限が上がってきていることが要因であること、他には中学校の部活動で始めた生徒は、上位カテゴリーに移行する時期と受験が重なるため、上位リーグへ移行するのが難しい環境にあるとの説明がなされた。レスキューNLではルールが変わり、選手の年齢制限が中学生以下になつたことを周知する必要がある。また、来年度以降のノード大会からエントリーをジャパンオープンと同様に統一エントリーフォームで行い、ブロック長の負担軽減、正確な情報収集と分析が行えるよう進めたいとの提言がなされ、ブロック長会議で意見を聞くこととした。

②松山理事より、2021ボルドー世界大会において渡航制限が出た場合の対応について、質問がなされた。野村理事より、これまでと同様に外務省から発表される渡航情報に従って対応し、RCJJとしては世界大会への推薦はしないことの確認がなされた。

③大橋代表理事より、ブロック長会議で持続化給付金が支給された旨、報告することが確認なされた。

④今井理事より、資料2に基づき、2020和歌山大会のビデオ審査実施の報告がなされた。

⑤水野専務理事より、資料3に基づき、これまでに開催されたオンラインイベントの紹介がなされた。

(3) 2021スケジュール

①森重理事より、資料4-1に基づき、2021年スケジュールの説明がなされ、ノード・ブロック大会の実施が不透明であるが、1月中旬頃までを目途に実施出来れば、選抜に間に合うとの見解がなされた。また、運営指針、ルール等の早めの公開が必要であるとの確認がなされた。

②大橋代表理事より、先日の名古屋市との打ち合わせにおいて、コロナ対策を行ったうえで、2021年ジャパンオープンは、予定通り3月26日から28日に開催するとの確認がなされた旨、報告がなされた。また、ノード・ブロック大会が出来なかった場合、ビデオ審査等の選抜方法を検討する必要があるとの提案がなされた。

・水野専務理事より、全チームをビデオ審査することは難しいため、各ブロック長から枠数のチームを推薦してもらう方法が提案なされた。これに対し、野村理事より、今年度だけの問題ではないため、ルール化が必要であり、ノード大会が開催できない場合は各ノードから代表チームを選び、各ブロック大会へ進み、開催できる様であれば大会での選抜、ブロック大会が開催できなければ各ブロック長にお任せして推薦してもらう。また、対戦型のサッカーは技術委員会で審査基準を設けてはどうかとの意見がなされた。森重理事よりビデオ審査を参考に、ブロック長に判断してもらってはどうかとの意見がなされた。

・水野専務理事より、三密を避けるため名古屋大会での全体の参加人数を減らす可能性について、言及がなされた。前田事務局長より、名古屋の会場は充分な広さがあるが、コロナ対策、導線等を考慮したうえで、例年通りの参加人数の場合と削減した場合のパターンで会場図面を作成する予定であるとの説明がなされた。

・大橋代表理事より、チーム数削減となった場合の削減方法について、議論がなされた。また、名古屋大会では、体験会などの一般来場者の誘致を控え、観客席の削減が検討されているとの報告がなされた。前田事務局長より、選手、保護者、関係者のみの無観客での開催を大会開催委員会に打診してはとの提案がなされた。

・大橋代表理事より、名古屋大会では出場チーム数が減る可能性について、ノード・ブロック大会が行われなかっ場合の選抜方法について、ブロック長会議で意見を求めるとした。

・水野専務理事より、名古屋大会の実行委員会には理事全員が入ってもらいたい旨、確認がなされ、理事会参加者からは特に反対意見は上がらなかった。

(4) 今後のレスキュー運営について

①森重理事より、レスキュー国際でRescue New Simulationリーグの立ち上げに先駆けて今年9月にデモ競技がスタートするのを受け、国内では実機とシミュレーションが別になっているので、今後一体化する方向で検討していきたい旨、報告がなされた。具体的な体制については、関係者と協議のうえ、再度提案するとの説明がなされた。

・水野専務理事より、現在のレスキュー技術委員の中で運営は可能かとの質問がなされた。これに対し、森重理事より、WGを作つて若手スタッフを増やし、新しいシミュレーションリーグに備えたい考えはあるが、現時点では人材の確保は追いついていないとの説明がなされた。大橋代表理事より、名古屋大会でデモンストレーションを実施してはどうかとの提案がなされた。関係者と協議を行い決定するとの回答がなされた。

(5) Regional Rep会議報告

①野村理事より、7月8日にRegional Rep会議が行われ、2021年仏ボルドー大会は大会規模、チーム数を維持し、準備中である旨、報告がなされた。また、2020年の選抜を行つたRegionは、選抜メンバー内に20歳の選手がいた場合でも、2021年ボルドー大会に出場することは可能であるが、選抜大会を行っていない日本は例年通りなので、来年度に限つての年齢制限の緩和を求めてはいるが、委員の反応は思わしくないとの説明がなされた。

・水野専務理事より、今後も大会が中止になる可能性を考慮すれば、来年度に限り年齢の上限を上げる必要はあるのか、との意見がなされた。森重理事より、2020年大会の出場権を有した選手のうち、2021年7月1日時点での20歳の選手は2021年のノード・ブロック大会へ参加できることはすでに認めているが、世界大会への推薦は国際ルールに準じメンバーは19歳以下で構成する、としてはどうかとの提案がなされた。これにより、2021年ボルドー大会の年齢制限を引き上げてもらう特例措置を取り下すこととした。

・松山理事より、ジャパンオープンが開催されなかつた場合の世界大会への選抜方法について質問がなされた。水野専務理事より、ブロックから各1チーム推薦してもらい、その中から世界大会への選抜をしてはどうか、また、その選抜方法についても今後議論する必要があり、ブロック長会議でも意見を求める提案がなされた。

(6) その他

①水野専務理事より、レスキューLineに追加されたシーソーについて、図面公開と販売の進捗状況について質問がなされた。田中監事より、図面については準備が出来次第、公開するとの説明がなされた。

②次回理事会は、10月4日(日)10:00～Web会議で行つことが確認された。

(7) 議事録署名人の選任

本日の議事録署名人として、水野勝教氏、及び野村泰朗氏にお願いすることとなつた。

以上、この議事録が正確であることを証します。

2020年8月2日

議長 大橋 健

議事録署名人 水野 勝教

同 野村 泰朗

